

音樂夜話(2)

室內樂編

2014.9.12.

S33.纖維卒

穴原明司

室内楽 (chamber music) とは

1 楽器で1声部を受け持って合奏する

二つ以上の独奏楽器による

小規模編成の洋楽。

弦楽四重奏、ピアノ五重奏など。

(ピアノ独奏などは室内楽に入らない。)

室内楽の種類

二重奏曲 (Duet)

三重奏 (Trio)

四重奏 (Quartet)

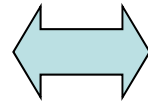
五重奏 (Quintet)

六重奏 (Sextet)

七重奏 (Septet)

八重奏 (Octet)

九重奏 (Nonet)



弦楽器

木管楽器

金管楽器

打楽器

撥弦楽器



弦楽四重奏曲

ヴァイオリンソナタ

木管五重奏曲

ソナタ形式の成立

18世紀前半までは萌芽状態だった

ソナタ形式

(一曲の構成)

提示部 (主題の提示)

展開部 (主題の展開)

再現部 (主題の再現)

終結部 (締めくくり)

ソナタ (奏鳴曲)

(複数楽章の楽曲の名称)

第1楽章 (ソナタ形式の曲)

第2楽章 (緩徐楽章)

第3楽章 (急速調のロンド)

第3楽章にメヌエット、スケルツォを挿入し、全体で4楽章形式としたのが交響曲である。

楽節の成立

歌曲などの楽曲を構成する楽節構造

1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---

主和音

属和音

主和音

(半終止)

(完全終止)

ほとんどすべての歌曲及び交響曲・奏鳴曲の緩徐楽章の主題

二重奏・三重奏の名曲

二重奏：

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ 第5番へ長調「春」 Op.24

ベートーヴェン：セロソナタ第3番イ長調 Op.69

三重奏：

ベートーヴェン：Vn./Ma./Fl.のセレナード 二長調 Op.25

モーツァルト：2 Cl./Fg.のディヴェルティメント 変口長調 K229

ベートーヴェン：ピアノトリオ 第7番 変口長調「大公」 Op.97

弦楽四重奏曲の発展(1)

16世紀後半～17世紀頃の音楽の潮流

イギリス

ヘンリー八世・エリザベス一世の頃

ヴィオール四重奏(SATB)

柔かい(かそけき)音

音色の均質性・各パートの平等性と
対話 王侯貴族の居間で流行

ヴァイオリン(フィドル)は、

大音響で甘美さに欠ける

戸外の儀式・ダンス

管楽器を加えて「壊れた合奏団」

次第にイタリア芸術の威光になびき

1683 パーセル:イタリア風三声部のソナタ

イタリア

ヴィオールよりヴァイオリン優位

ヴァイオリンの音色を改良

クレモナ地方のアマティー族他

四重奏形式が定着

高音楽器2、鍵盤楽器(和音)と

通奏低音による補強

四奏者による三声部のソナタ

音楽の大衆化

大ホールに相応しい音響

弦楽四重奏曲の発展(2)

スカルラッティ(1660 - 1725)

1715頃

「2Vn., Vla., Vc.のチェンバロを伴わない四重奏ソナタ」
以後、この四重奏形式が、合奏協奏曲、交響曲の基幹。
合奏協奏曲→独奏協奏曲→四人の独奏者による協奏曲
四重奏の草分け

吉田秀和氏「もしピアニストだったら、四人の作品で十分」
スカルラッティ、モーツァルト、ドビュッシー、(シューベルト)

→ **ホッケリーニ(1743 - 1805)**

弦楽四重奏曲の発展(3)

ホッケリーニ(1743 - 1805) 作曲家・チェロ奏者

イタリア生まれ、弦楽四重奏というジャンルを最初に完成。
1769以降、スペイン カロス3世の弟ドン・ルイス王子庇護のもとに
スペインに滞在し、王家の弦楽四重奏団を自由に使い、自在
な発想の作品を多数残し、影響はハイドン・モーツァルトにも及び、
ロマン派時代まで続いた。 → **多彩な発展・展開**

弦楽四重奏曲 97曲、 弦楽五重奏曲(Vc.) 113曲、
弦楽五重奏曲(Vla.) 24曲、ピアノ五重奏曲 12曲、
Fl.orOb.五重奏曲、ギター五重奏曲18曲、弦楽六重奏曲6曲、
管の八重奏曲1曲

弦楽四重奏曲の発展(4)

J.ハイドン(1732-1809) 77曲の弦楽四重奏曲を作曲

オーストリア生まれ. 交響曲の父、弦楽四重奏曲の父とよばれる.

オーストリア政府の委嘱により「皇帝賛歌」を作曲(現ドイツ国歌).

1755-1771 18曲のSQ ホッケリーニの作品より見劣り

「無名であるが知る価値のある作曲家」の一人として出版

1772 「太陽四重奏曲」Op.20 K.P.E.ハッハの影響みられる.

1787 「プロイセン四重奏曲」Op.55 ~ 「ひばり」Op.64

1793 「ザロモン四重奏曲」(一般聴衆向け) Op.71,74「騎士」

1797 Op.76(6曲) -2「5度」, -3「皇帝」, -4(やさしさ), -6(気品)

1799 Op.77(2曲)



洗練され均整のとれたスタイルを確立

Haydn:S.Q.「ひばり」

Quartet No. 67

(L a r k)

I

Joseph Haydn, Op.64, No.5

Allegro moderato

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

staccato

p

staccato

p

staccato

p

mf

10

弦楽四重奏の発展(5)

モーツァルト(1756-1791) 27曲の四重奏曲(内4曲は管用)

1772-3(16,7歳) 「ミラノ四重奏曲」(6曲155-160)

1773 ハイドンを訪問「太陽四重奏曲」に接し,多くを学ぶ.6曲

1781-1785 更にハイドン(Op.33等)を研究し,飛躍的進歩

6曲(K387,421,428,458「狩」,464,465「不協和音」)

1784 フリーメイソンへ入会許可(K465の1ヶ月前) 入会儀式

ウィーンのサロンで,ハイドン,グィッター-ストルフ,モーツァルトらでSQ演奏

1789 プロイセン国王フリードリヒ二世の注文で3曲

K575,589,590「プロシャ王」(セロに重点)

1791 「クラリネット五重奏曲」K581

→ **弦楽四重奏曲の形式を確立し生命を吹き込んだ**

弦楽四重奏曲の発展(6)

ベートーヴェン(1770-1827) 17曲の弦楽四重奏曲

1792 (22歳)ハイドンに師事するためボンからウーンへ
リヒツスキ-のサロンで毎週金曜日にハイドン指導の弦楽四重奏

第1期 1808-01 6曲(Op.18)を第2の庇護者ロブコヴィツ公に

第2の師匠フェルスターの私邸で定期的なコンサート

リヒツスキ-公の与えた名器のシュヴァンツィック弦楽四重奏団

1805-16 ロシア大使 ラスメフスキ-伯がスポンサーに加わる.

No.7,8,9の3曲(Op.59)をラスメフスキ-伯に献呈.

第2期 1809(ナポレオンウーンを包囲)

09 No.10(Op.74), '10 No.11(Op.75)

14 ラスメフ伯邸焼失,'16 ロブコ公没, シュ弦四解散, スポンサーを失う.

第3期 24 交響曲9番を完成した後の晩年

25 No.12,13(Op.127,130)

26 No.14(Op.131), **No.15(Op.132)イ短調**, No.16(Op.135)



弦楽四重奏曲の奥義を極めた

ベートーヴェン: SQ No.15 イ短調

String Quartet No. 15 a-minor

第一楽章

L. van Beethoven Op. 132
1770-1827

Assai sostenuto



Violin I
Violin II
Viola
Violoncello

Allegro



10



20

Adagio Allegro



fp

ハートウヰン:SQ No.15 イ長調

第三楽章

Heiliger Dankgesang eines Genesenen an die Gottheit, in der lydischen Tonart ★
(Canzona di ringraziamento offerta alla divinità da un guarito, in modo lidico)

Molto adagio

The first system of the musical score consists of four staves. The top staff is the vocal line, marked 'sotto voce' and 'cresc. p'. The second staff is the first guitar part, also marked 'sotto voce' and 'cresc. p'. The third staff is the second guitar part, marked 'sotto voce' and 'cresc. p'. The fourth staff is the bass line, marked 'sotto voce' and 'cresc. p'. The music is in a slow, adagio tempo and features a mix of eighth and quarter notes with some rests.

The second system of the musical score consists of four staves. The top staff is the vocal line, marked 'p' and 'cresc.'. The second staff is the first guitar part, marked 'p' and 'cresc.'. The third staff is the second guitar part, marked 'p' and 'cresc.'. The fourth staff is the bass line, marked 'p' and 'cresc.'. The music continues with similar rhythmic patterns and dynamics.

The third system of the musical score consists of four staves. The top staff is the vocal line, marked 'cresc. p'. The second staff is the first guitar part, marked 'cresc. p'. The third staff is the second guitar part, marked 'cresc. p'. The fourth staff is the bass line, marked 'cresc. p'. The system concludes with a double bar line and a key signature change to D major.

★「病から回復した或る一人の者が神に捧げるリーディア調の聖なる感謝の歌」

Neue Kraft fühlend ★
(Sentendo nuova forza)

Andante

Musical score for the first system, measures 1-10. It features a piano (p) and forte (f) dynamic range, with trills (tr.) and a crescendo (cresc.) marking.

Musical score for the second system, measures 11-20. It includes trills (tr.), piano (p), forte (f), and tenuto (ten.) markings, along with a crescendo (cresc.) marking.

Musical score for the third system, measures 21-30. It features piano (p) and forte (f) dynamics, trills (tr.), and a crescendo (cresc.) marking.

Musical score for the fourth system, measures 31-40. It includes piano (p), fortissimo (pp), and a crescendo (cresc.) marking.

★「新たな力を感じつつ」

OGT 164

弦楽四重奏曲の発展(7)

スカルラッチィ (1660-1725)

ボッケリーニ (1743-1805)

ハイドン (1735-1809)

モーツァルト (1756-1791)

ベートーヴェン (1770-1827)

シューベルト (1797-1828)

ドボルザーク (1841-1904)

ヴェーベルン (1883-1945)

弦楽四重奏曲の名曲

ハイドン:弦楽四重奏曲 第67番 二長調「ひばり」 Op.64-5

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第17番 変ロ長調「狩」 K458

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 Op.132

ドボルザーク:弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」 Op.96

ヴェーベルン:弦楽四重奏のための5つの断章 Op.5

四重奏以上の名曲

モーツァルト：弦楽五重奏曲 第4番 ト短調 K516

レイハ：木管五重奏曲 ハ長調 Op.91-6

シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調「鱒」 Op.114

シューベルト：2Vn., Vla., VC., CB., Cl., Hn., Fg. の
オクテット ヘ長調 Op.166